高校進路担当者による短期大学への評価と期待

武藤玲路

(長崎女子短期大学生活科学科)

キーワード: 短期大学、評価、期待

Evaluation and expectation of the junior colleges by the high school teachers

Ryoji MUTO

(Nagasaki Women's Junior College)

Key words: Junior College, Evaluation, Expectation

目 的

短期大学と利害を共有するステークホルダーを対象とした調査として、筆者等の研究グループは、これまでに短大卒業生調査(武藤等、2004、2005、2006、2007、2008)を始めとして、短大在学生調査(武藤、2009)、及び短大進路先調査(吉本等、2007)を実施してきた。

今回は、高校の進路担当者を対象として、「短大への評価と期待」に関する調査を実施し、今後の短大の方向性を検討する上での参考資料とすることにした。

本研究は、最終的に次の点を研究の目的としている。

- 1) 短大の点検・評価、改革・改善のための知見を広める。
 - ①短大に対する高校進路担当者の評価と期待を把握する。
 - a) 短大、専門学校、四大に関する特徴・印象の捉え方
 - b) 短大の存在意義、評価と期待、魅力を増す方法
 - ②今後の短大の役割と機能、具体的な対応を検討する。
- 2) 短大ステークホルダー調査の方法論を検討する。
 - ①質的調査:被調査者の詳細な本音や想定外の意見収集。
 - ②テキスト分析:主要キーワードによるカテゴリの作成。
 - ③分析ソフト:瞬時に妥当性と信頼性の高い分析の開発。

方 法

- 1 調査対象:九州地区の高校の進路担当者 26 名
- 2 調査時期:2009 年 1 月 21 日~12 月 18 日の期間。
- 3 調査場所:インタビューの高校、インタビュアーの短大。
- 4 調査形式:質問を事前に選定した半構造化インタビュー。
- 5 質問項目:以下の 10 項目について調査と分析を行なった。
 - ①短大進学者数の変動について(過去 5 年間の傾向)
 - ②短大進学の変動要因について(短大の特徴・印象)
 - ③専門学校との違いについて(専門学校の特徴・印象)
 - ④四年制大学との違いについて(四大の特徴・印象)
 - ⑤短大間の比較について(短大選択のポイント)
 - ⑥短大の知名度について(誰が・何を)
 - ⑦短大へのアプローチについて(方法・効果)
 - ⑧短大の学生募集活動について(是非・要望)
 - ⑨短大との高大連携について(実績・要望)
 - ⑩短大への期待と提言について(期待・魅力を増す方法)
- 6 分析方法
 - 1) 可能な限り忠実に自由回答の逐語録を作成した。
 - 2) 有益な情報となる主要なセンテンスを抽出した。
 - 3) 文章解析ソフトによるテキスト分析を実施した。
(使用ソフト:SPSS 社製 PASW- Text Analytics for Surveys 3)
 - ①キーワード抽出(感性分析法:品詞別と類義語別に抽出)
 - ②タイプ分類(肯定的/否定的な意味を持つキーワード)
 - ③タイプパターン分類(肯定的/否定的+語句+品詞)
 - ④カテゴリ化(言語学的手法:概念や同時出現語句に分類)
 - ⑤カテゴリの視覚化(棒グラフ、Web グラフ・テーブル)
 - 4) 主要な意見を把握する(主要カテゴリ文章の要約)。
 - 5) 新規カテゴリを作成する(主要カテゴリの統廃合)。

結 果

短大に対する否定的評価のタイプパターン分類(図 1)と短大に対するイメージのカテゴリ Web グラフ(図 2)を示す。

図 1. 短大に対する否定的評価のタイプパターン分類

図 2. 短大に対するイメージのカテゴリ Web グラフ

考 察

本研究は、短大のステークホルダー調査として、九州地区の 26 校の高校進路担当者を対象に「短大への評価と期待」に関するインタビューを実施した。その結果、「短大への期待と提言」に対する回答を集約すると、以下の 3 点が課題として浮上してきた。その第 1 は「短大の独自性の確立」であり、第 2 は「短大のカリキュラムと教員の質保証」、そして第 3 は「短大卒業後の出口保証」であった。これらの点は、2008 年に日本私立短期大学協会が、「短期大学教育の再構築を目指して～新時代の短期大学の役割と機能～」の中で、短大の改革の道筋として挙げている内容と一致している。従って、高校の進路担当者の意見は、今後の短大教育の改革にとって、重要な検討材料になると言える。